

良され、新製品の開発ペースが非常に早い。耐食性改善に当たっては、その腐食・防食挙動を正確に知る必要があることは言うまでもない。そこでまず腐食の基礎である金属表面皮膜の性質、電気防食、塗膜下腐食、塗膜の防食作用、化成処理皮膜の作用を解説した後、腐食試験法、自動車及び建材の腐食機構について、最近の研究結果を中心に述べてみたい。

6) 自動車用防錆鋼板の諸特性と今後の動向 金丸 辰也

自動車用の防錆鋼板使用量が近年更に増加しており、かつ要求される性能の変化に応じて新しい防錆鋼板が開発、実用化されてきた。耐食性、塗装適合性、プレス加工性、接合性等の品質性能を中心にして、防錆鋼板の進歩と今後の動向を概説する。

7) 家電・建材用表面処理鋼板の諸特性と今後の動向 増原 憲一

近年、表面処理鋼板の進歩とそれに伴うニーズの拡大は著しい。家電・建材用表面処理鋼板においては、めっき鋼板や塗装鋼板への各種の機能性の付与の動きが活発である。ここでは、めっき鋼板の用途、特性、機能付与や家電用プレコート鋼板、長期保証カラー鋼板などの塗装鋼板の現状と今後の動きについて説明する。

8) 金属缶用材料の諸特性と今後の動向 藤本 輝則

金属缶は高速生産性、コスト、強度、密封保証性などに優れ、着実な伸びを続ける飲料用容器として現在でも大きな位置をしめている。しかしながら、近年における円高・貿易問題に端を発した製缶業界からの「コストの安い、優れた素材」への要求はますます厳しくなっている。本講では、スチール缶材のとってきた技術的対応を概説するとともに今後の課題について述べる。

4. 聴講無料（事前申込み不要）

5. テキスト代 未定（個人会員の方はテキスト購入に当たって会員証をご提示下さるようお願いいたします）

6. 問合せ先 日本鉄鋼協会 編集・業務室（〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-3279-6021）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

◆ 第 20 回 白石記念講座

主催 日本鉄鋼協会

90 年代のコンピュータテクノロジーの利用技術

▶ 平成 3 年 6 月 12 日（東京）

1. 期 日 平成 3 年 6 月 12 日（水）

東京 経団連ホール（千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 14 階 TEL 03-3279-1411）

2. 演題および講師（敬称略）

9:30～11:00 スーパーコンピュータの現状と 90 年代の利用技術

慶応義塾大学理工学部物理学科 教授 川合 敏雄

11:00～12:00 コンピュータ・シミュレーションの現状と 90 年代の利用技術

新日本製鉄(株)未来領域研究センター 主任研究員 松宮 徹

13:00～14:00 ニューロ・ファジィ・AI 技術の現状と 90 年代の利用技術

(株)神戸製鋼所電子技術研究所 副所長 小西 正躬

14:00～15:00 ネットワーク技術の現状と 90 年代の利用技術

文部省 学術情報センター研究開発部 教授 浅野正一郎

15:10～16:10 コンピュータグラフィックスの現状と 90 年代の利用技術

東京大学理学部情報科学科 教授 國井 利泰

16:10～17:10 CAD/CAM の現状と 90 年代の利用技術

早稲田大学理工学部機械工学科 教授 山口富士夫

3. 講演内容

1) スーパーコンピュータの現状と 90 年代の利用技術 川合 敏雄

演算速度がギガ FLOPS に達したスーパーコンピュータは、計算力学・計算化学を離陸させた。計算は、実験・理論と並ぶ第三の方法としての地位を固めつつある。計算機の速さは 10 年で千倍の勢で加速しているので、その利用技術も革命的に変わる。今世紀中にユーザーは約半分の自然問題に対して楽々と信頼のおける解を一時間程度で得ることができる。ここでは超並列計算機を自然アルゴリズムで動かすという一つの道を中心に講演する。

2) コンピュータ・シミュレーションの現状と90年代の利用技術 松宮 徹

従来から行われてきた流体、伝熱、電磁場、応力解析等に加え、計算物理、計算化学の進展は、鉄鋼、新素材、半導体等の材料、プロセス開発に革新を与える。コンピュータシミュレーションの適用分野の最新動向と今後の可能性について特に計算物理分野において総括的に解説する。すなわち、密度汎関数法による電子構造解析、ならびに分子動力学法、モンテカルロ法について計算手法および物性予測、微視的現象・プロセス解析等への利用における現状と将来動向、可能性について述べたい。

3) ニューロ・ファジィ・AI技術の現状と90年代の利用技術 小西 正躬

鉄鋼業では新技術の積極導入によって製品品質の向上とコスト競争力の強化を図っている。ところで、従来技術では克服できない課題がありニューロ・ファジィ・AI技術に期待が集まっている。これら人工知能技術は、従来技術が不得手とする非線形・大規模・多目的・時変性・あいまい性への対応能力に優れているといわれている。今後いっそう進歩すると予想されるコンピュータの処理能力を考えると、ニューロ・ファジィ・AI技術は90年代に飛躍的な進歩を遂げるものと期待されている。本講演ではニューロ・ファジィ・AIの基本機能について説明すると共に、高炉の炉熱制御、圧延の形状制御等、鉄鋼プロセスへの応用例について紹介する。

4) ネットワーク技術の現状と90年代の利用技術 浅野正一郎

情報ネットワークを構成する事例は日々に増加しているが、ネットワークを活用する応用の高度化、運用の円滑化・高信頼化に資する技術開発への要請もまた高まっている。この代表には、分散配置された情報の相互活用を広く可能とする分散処理技術の実用化がありさらに多様なネットワーク構成機器の運用監視や人員配備計画等を統一的に扱うネットワーク・マネジメント技術の導入があり、また共通の基盤技術としてセキュリティ技術の高度化が挙げられる。

一方、通信網を構成する基礎技術として、高速（広帯域）通信網の実現とその利用の促進とが挙げられる。既に、構内通信網（LAN）において高速通信の活用が始まっているが、より広域にわたり、映像通信との融合をも可能とする高速通信網は、90年代のネットワーク技術に変革をもたらすものと考えられている。

産業界でも電子データ変換（EDI）の浸透への要請が高まり、相互運用性（インターオペラビリティ）の高い通信方式の上に標準的メッセージを定義し、この導入を図る試みが多方面で行われている。

これが、90年代の情報ネットワークを形成する要素技術と考えられる。

5) コンピュータグラフィックスの現状と90年代の利用技術 國井 利泰

90年代は、コンピュータグラフィックスも、ビジュアルに情報を表示する、いわゆる“見る”時代から、ビジュアルな世界をコンピュータ内に作り出し仮想の世界を“体験する”時代に入った。応用も、例えば生産を生産工程への“部品の旅”として体験し、医学も高度な医療を目指し、患部を直接攻撃する“体内の旅”として体験するようになる。本講演は、このような90年代のトレンドを講演者の研究・開発している事例を通して具体的に解説する。

6) CAD/CAMの現状と90年代の利用技術 山口富士夫

CAD/CAMの技術は、営業、販売をも統合した総合生産システム（IMS）に進展しつつある。本講演においては、CAD/CAMの現状を概観するとともに、90年代において登場が予想される新しい技術を考察する。その主要な技術の一つはCAD/CAM/CGを統合する完全4次元処理の統一処理理論に基づくものであると考え、主として本技術のIMSへのインパクトを考察する。

4. 聴講無料（事前申込み不要）**5. テキスト代 未定****6. 問合せ先 日本鉄鋼協会 編集・業務室（〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-3279-6021）**

～・・・～